

平成25年度学校評価を受けた取り組みの途中経過について

平成26年2月17日

平成25年度2学期に行った自己評価、学校関係者評価をうけて、2学期末より下記取り組みを重点的にすすめている。

1. 授業連絡カード

2学期末、学部ごとに児童生徒一人当たりの記述枚数と教師一人あたりの記述枚数を調査し、集計表にまとめた。結果と改善点は次のとおりである

<結果>

- 複数の学部において作成枚数を見直し、少なくした
- どの学部においても教師一人あたりの記述枚数に差があった
- 学期途中で作成しタイムリーに保護者へ伝えることができ、学期末の配布数が減った

<改善点>

- 配布枚数を学部間で差がないようにする
- 学期末のまとめ書きを少なくする
- 枚数のみではなく、記述内容について、シンプルでわかりやすい表現のさらなる工夫をする

2. 教員の資質向上に向けた研修の取り組み

(1) 来年度実施予定の研修・研究計画の策定と準備

①授業力向上のための取り組み

- 一人一実践
一人一人が指導力を向上し、1時間の授業を完結できる授業力をつけるため、指導案を作成し授業実践を行う
- 校内研修会（平成26年6月、9月）
授業力の向上と実践上の困り等の解決を目的として、講師を招聘して行う

②新研究の取り組み

- 研究課題の設定（平成26年8月）
情報収集資料をもとに、研究課題、研究対象領域、研究体制を検討し設定する
- 校内研修会（平成26年12月）
新研究に向けた基礎的研修のため実施する
- 授業研究会（平成27年2月6日）
研究課題に基づいた授業で指導案を作成し、授業公開を行う
新研究の課題に関連した内容の講演会を行う

(2) 県外出張

全国の大学附属学校8校に20名の教員を派遣し、各校の研究発表会に参加した。帰校後校内での報告会を実施し、重要な内容を全員で確認した。得られた資料、研修内容は来年度から実施する新研究に反映させる。派遣した学校名及び人数は以下のとおりである

- 東京学芸大学附属特別支援学校 3名
- 愛媛大学附属特別支援学校 3名
- 国立特別支援教育総合研究所セミナー 1名
- 筑波大学附属久里浜特別支援学校 1名
- 香川大学附属特別支援学校 3名
- 熊本大学附属特別支援学校 3名
- 長崎大学附属特別支援学校 3名
- 京都教育大学附属特別支援学校 3名
- 高知大学附属特別支援学校 3名

3. 個別の教育支援計画策定の取り組み、教育的ニーズの再確認

(1) 2学期末の個別面談の実施

年度における中間評価を行うため、2学期末に保護者との個別面談を実施し、実施状況の確認、評価、今後の取り組みにおける課題について話し合いを持った

(2) 個別の教育支援計画の取り組みの見直し、改善

「個別の教育支援計画について」（本校における手引き）を作成し、支援計画の作成、活用方法について再確認するとともに、「1年間の流れ」を見直し、様式の1部変更を行った。その際、特に保護者や本人の教育的ニーズを支援計画に反映するよう努めている